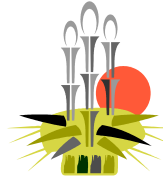


# パモジヤ



2005年1月新春特大号

~未来のきりん探しの旅に出よう!~

## 今月のINDEX

- 1) 新年のご挨拶
- 2) 2006年成年! 年男・年女の“今年の抱負”
- 3) JICA 研修情報
- 4) 事務所からのお知らせ
- 5) 特集: 新人研修「包括的マラリア対策プロジェクト」
- 6) CD-Rom 教材および JICA-Net のご紹介

### 1) 新年のご挨拶

小幡 所長

Stand tall: 背高のっぼのキリンと共に

新年明けましておめでとうございます。皆様、如何お過ごしのことでしょうか?



日本の各地から、降雪のお便りを戴いておりますが、日本のシンとした白銀の世界とは好対照に、こちらタンザニアでは今が正に夏の盛りであり、火炎樹が新緑と共に強い陽射しを撥ね返しながら赤々と咲き誇る季節となっております(写真: 火炎樹の木と花のアップ)。

さて、こんな夏空の下に始まった今年2006年は、新しいタンザニアが動き出す年と言えます。昨年12月14日に、5年ぶりに連合共和国としての総選挙が実施されましたが、各投票所にて、市民一人一人が一票を投じることを誇りに感じつつも、何かしら楽しみにもしているという姿を垣間見ることができました。10月末に行われたザンジバルでの大統領・地方選挙時と比べ、CNN等の国際報道の話題にもならない程に、選挙が選挙として当たり前タンザニア全土で行われたと言う事実は、ある意味、タンザニアの政治的な安定性が本物になった、あるいは本物であると世界中から認識された証と言えるのかもしれません(ザンジバルの方も、10月30日の投票日前後に、ストーンタウン周辺の一部地域で幾つかの騒動がありましたが、その後、落ち着きを取り戻し、12月の総選挙も無事に完了しています)。

続く21日には大統領就任式が行われました。式典の最中、就任の宣誓を終えたばかりのキクウェテ新大統領に対し、ムカバ前大統領が立ち上がり、敬意を表しつつも満面の笑みをもって、且つキョートな仕草で、彼の座るべき大統領席に案内をする姿が見られました。この光景は、参列した各国首脳をはじめとする来賓の方々や政府関係者、そして肩を寄せ合いながらテレビを見つめ、ラジオを聞き入っていたタンザニアの多くの市民の笑顔を誘っていましたが、まさにこのさりげない光景こそが、未だ政権の安定性の問題を抱える多くのアフリカの国々に対し、平和の次に来る彼らの望ましい未来のイメージを投影し、且つタンザニアの国としての確固たる強みのメッセージも伝



えたのではないかと感じた次第です。

キクウェテ新大統領は就任演説の中で、アフリカの諺を引用しつつ、ニエレレ、ムウニ、ムカパと言う偉大なる先人の大統領の功績を踏まえ、彼らの肩の上に立ち、彼らに支えてもらいながら、更なる高みに立ちたいという思いを伝えています。また、選挙中の所属政党 CCM のキャンペーン・コピーである、スワヒリ語の Kasi mpya, ari mpya na nguvu mpya. (新しい勢い、新たな決意、新たな熱意)を引用し、この気持ちを持って政策の実行に当たりたいとし、更に、ガーナのアシャンテの人々の諺「家が燃えている中で、2人の男は議論のために立ち止まってはならない」を引用し、私は「単なる議論のために、貧困に対する戦いを止めてならない」と言いたいとし、人々の一層の団結を呼びかけて演説を締め括っています(注1)。

弱冠40歳の若さで、水・エネルギー・鉱物資源大臣に就任。その後、大蔵大臣となり、そしてムカパ大統領の下、10年間、外務・国際協力大臣を務めることにより国際感覚を叩き上げ、更に今回の国民の直接投票で圧倒的な支持(総投票数の80.28%)を勝ち得た、55歳のハンサムなキクウェテ大統領。こうした彼が手綱を握る「僕らのキリン(タンザニア)」の将来に、JICA タンザニア事務所としては、如何に関っていくかを真剣に考えていきたいと思っています。まずは、先月30日に国会で行われた大統領の所信表明演説を分析し、引き続き1月上旬を目処に行われる組閣の布陣と、その後、順次行われる中央・地方政府機関の次官・局長級人事配置を見、彼等と話をした上で、新政権の政治力、政策実行力を占うことから始めてみることに致します。

タンザニアでは今年度(05年7月から06年6月までがタンザニア会計年度です)から、5年間に亘る新たな貧困削減計画である NSGRP (National Strategy for Growth and Reduction of Poverty) が実施に移されたところです。また、援助の分野ではこの NSGRP を機能させる新たな戦略枠組みとしての JAS (Joint Assistance Strategy) の最終化に向けての議論が、タンザニア政府、ドナー、NGO 等多くの関係者を巻き込んで活発に行われています。未だ一人当たり GNI が 290 ドル(注2)そこそこのタンザニアで、そしてボレボレ(ゆっくり、ゆっくり)の国タンザニアで、MDGs (Millennium Development Goals) を睨みながら数多くの改革を短期間に断行している訳ですから、行政的な軋みも、人々の不満の声も、時として諦めの声さえも、あちらこちらから聞こえて来るのが実情です。新大統領にかける人々の大きな期待も、今後、成果を目に見える形で着実に仕上げて行かなければ、将来的には大統領の重い足枷になる可能性もあります。企画の時代が終わり、実質的な成果が求められる時代となった今日、新大統領にとり、大変な未来が待ち構えているのかもしれない。

今年はその「大変な未来」の幕開けの年になるのかもしれませんが、JICA タンザニア事務所としては、タンザニアにとっての一つの大きな節目であり、新たなスタートラインであるこの時期を好機と捉え、皆様と共に、そして新しい力の溢れる「僕らのキリン(タンザニア)」と共に、現実に即してものを考え、“高みからものを見ている大統領”にも助言ができるような仕事をしていきたいと考えています。タンザニア内外の皆様からも、色々なご意見をお寄せ戴きましたら幸いです。私達も、冷や汗や脂汗と共に知恵を絞り、新しいスピード感覚と、タイムリーな決断、そして忘れてはならない情熱をもって、今年一年、皆様と共に(パモジャで)頑張っていきたいと思っています。本年もどうぞ宜しくお願い致します。Maisha bora kwa kila Mtanzania! (全てのタンザニアの人々の、より良い生活・人生のために:注3)

注1: 大統領就任演説全文は次のアドレスにてご参照戴けます。

[http://www.tanzania.go.tz/hotuba1/hotuba/051221\\_inaugural\\_speech.htm](http://www.tanzania.go.tz/hotuba1/hotuba/051221_inaugural_speech.htm)

注2: World Bank Atlas 36<sup>th</sup> edition, 2004 (Data refer to main land Tanzania only)

注3: 与党 CCM のキャンペーン・コピー。選挙期間中、私の頭にずっと入って来たメッセージで、内容が普遍的なもののために、引用させて頂きました。

## 2) 2006 年戌年! 年男・年女の“今年の抱負” 年男、年女の皆さん



今年の年男および年女の戌年の皆さんに今年の抱負を語ってもらいました。

### 金森 将吾 専門家(包括的マラリア対策プロジェクト)

今年の抱負を包括的にまとめました。

仕事:業務を効率化して、残業を減らす

趣味:チェロをもっと練習して腕を上げる

家庭:娘に楽譜の読み方を教える

健康:マラリアにかからないようにする



### 真鍋 真 ボランティア調整員

細木先生によると昨年から大殺界とのことで、初めて飼ったカメレオンは2匹ともカラスに食べられ、さらに、よからぬ噂で足元をすくわれるといった年でした。大殺界は3年続くというので、今年は、地味に、目立たず、堅実に地を踏みしめて進んでいきたいと思います。

### 浅田 志保 隊員(16-3、エイズ対策、ダルエスサラーム)

訓練開始から数えると、丁度1年が経とうとしている。その間に、様々な事があつたと振り返り、思いをめぐらせる半面、淡々と過ごしてしまった月日への物寂しさを感じる。新年に向けての抱負を考えるにあたり、ふと、新卒で働きだした頃の事が脳裏に浮かんだ。幸いにも、とても良い人間関係に恵まれ、又、多くの人々と出会う事が出来、人々が与えてくれる真心の大きさ、人と人のふれあいの楽しさ、素晴らしさを学んだ職場であった。月日を重ねる毎に、あの頃の思いを忘れて過ごしてきた自分がある事に、ふと気づかされた。私達の生活には、様々な出会いがあり、そして別れがある。そんな一つ一つの出会いを、単なる物理的なものにするか、生活の、又は自分の人間形成の上での糧とするかで、その人の人生は大きく異なると思う。隊員として活動させて頂く間、日本での生活では、体験する事は出来ない貴重な出会いにめぐり合うことが、多々あると思う。そんな一つ一つの出会いを大切に、タンザニアの生活ならではの体験する事が出来る、人と人のふれあいの楽しさ、素晴らしさを学べたらと思う。

### 藤井 大輔 隊員(17-1 農業土木、現在KATCにて修行中。間もなくザンジバルに赴任予定)

- (1)薄れてきた関西弁のリハビリ
- (2)使えないスワヒリ語の強化
- (3)日本にいる彼女と別れないようにする
- (4)男性から好かれないようにする

### 永島 美和子 隊員(17-1 青少年活動、ダルエスサラーム)

ダルエスサラームという猛暑地域で健康を保てるように体を少しずつ鍛えて生きたい。また自分のせっちな性格にタンザニアのポレポレ精神を少し取り入れ、バランスよく保てるようにも努力していきたいと思っている。

### 江口 麦彦 隊員(16-3 理数科教師、リンディ)

タンザニアに来て、野生動物の多さ、環境に適応した暮らし、物はないけど、時間的・精神的ゆとりがあることなど、すばらしいと思った。なにか人間本来の姿を見たような気がする。特に、資源・エネルギーを大量消費せず、たくましく暮らしているところを学びたい。工業化以前の日本も、たぶんこんな暮らし(おあらか?)だったのかなと安心した。

### 松浦 綾子 隊員(17-2 理数科教師、リンディ)

タンザニアに来て、まだ2週間ばかりでこれを書いています。期待と不安が交錯している今ですが、自分のすべきこと、したいこと、この2年間でやりたいです。食事、気候、文化が違う中での生活は時につらいこともあるかもしれな



いですが、任地で色々な方と交流を持ち、お互いを尊重し合いタンザニアでの生活を有意義なものにしていきたいです。

#### 蔵野 国司隊員(17-2 モシ 数学教師)

私の小さいときからの夢、将来なりたい職業は教師だった。その夢がついに現実になるときが今年となる。つまり、今年が教師初年度となる年になる。だから、自分が教師として大きな壁にぶつかることが多くあると思う。その問題に対し、失敗を恐れず、様々な方法を考えたり、努力したりしてひとつでも多く解決していこうと思う。

#### 有光 佐知子所員(JICA 新人研修中)

先日行ったサファリでお世話になったドライバー(サファリのガイドさん)の、常に明るく楽しそうな振る舞い(性格?)がとてもチャーミングで魅力的でした。今年が昨日よりも今日、今日よりも明日、笑う回数が増えるような一年にしたいと思います。

### 3) 耳より! JICA 研修情報

ごめんなさい!! 今回は募集中のコースはありません。次回以降、新しい情報をお届けしたいと思っています。

### 4) 事務所からのお知らせ

#### 次長の「目(jicho)」

高橋次長

JICHOとは、スワヒリ語で「目」の意味です。

明けましておめでとうございます。

今年の暦では、不利な曜日の並びで、我が家では暦通りの休暇、正月も2日から出勤となりました。

皆様はいかがお過ごしでしょうか。

9月に赴任してからの3ヶ月間、「コモンバスケット、セクターレビュー、アニュアルレビュー、PRSP、GBS、DADP、ASDP・・・」と呪文のように繰り返される聞きなれない単語、略語に混乱しながら過ごしてきました。会議でも周囲の白い目を気にしながら「これはどういう意味ですか?」と、議論を遮るような私の間抜けな質問も、以前より少なくなってきた(?)ところです。

最近の隣国ケニアからの報告においても「アフリカ勤務の在外所員の資質として、少なくとも事業担当次長においては、援助協調など、最近のトレンド(?)を熟知した職員の配置が必須・・・」とありました。ドキッ! 私は見事にミスキャスト?? まさに「針のむしろ」状態です。

今月の一言は、『安全第一』です。

#### 安全とは、現場を知らずして、確保することはできない!!

またまた、前職の話になりますが、私が勤務していたプラントを含め、製造業では労働災害は、企業の利益のみならず、時には企業存続を左右する要因となります。工場内では、労働災害を防止するために、経営層から製造現場の人々までを対象に、様々な人材育成、改善運動、標語、キャンペーンなど、具体的な行動が実行されています。工場内でのヘルメット、伽畔(きゃはん:知らない人は高橋に聞いてください)、安全靴など、安全装具の装着、構内道路横断時の安全確認、消防訓練など、様々な行動が生産活動の前提として実行されており、安全対策への意識、緊張感は必然的に高まります。私も時々、構内の消防車に乗り、消火訓練にも従事しました。

私が勤務していた1990年頃は、労働安全への意識が定着し、技術開発が競争力を伴い、生産活動が盛んに



なった時期で、これが経済成長につながりました。バブル経済と当時を揶揄する人々も多く存在しますが、製造業の現場では地味な生活と着実な生産活動を具体的な行動として進めてきた、と自負しています。

国際協力も同様で、安全に対する意識を備えた現場からの視線を保つことを前提に、正しい事業実施、計画評価を実施することができます。効果的な事業を進める上で、安全対策を含めたあらゆる行動を伴うことが必須です。現場を離れて、会議室に閉じこもり、技法に酔い、評論家として、有識者として、どんなに立派な開発計画を描けても、常に現場感覚を忘れずに、行動に責任を持たなければなりません。

### 「踊る大捜査線」に学ぶ

かつて「踊る大捜査線」という警察組織を舞台にした TV ドラマでは、官僚組織と所轄警察署刑事との間の葛藤、組織を強化、活性化するための様々なアイデアが盛り込まれていました。「踊る大捜査線」でも、警察官僚が導入したプロファイリングというデータベースに基づく犯人像の情報分析に対して、小泉今日子扮する怪しいサイコ殺人鬼「日向真奈美」が犯罪そのものへの勸を働かせ、見事に技法や表面的な情報分析に酔いしれる捜査の盲点をつき、官僚は見事に現場捜査の重要性に気づくといった場面があります。詳しくは「踊る大捜査線に学ぶ組織論入門」(かんき出版、著者;金井氏)を参考にしてください。事件を JICA 事業に置き換えると、このような話はたくさんあります。最近では、途上国に対して、計画、成果についてだけ口を挟もうとする姿勢、自らの存在を知的支援などと平気での給う姿勢には、技法に酔いしれるエリート、バブル時代の ×アナリストをも髣髴させられます。拳句の果て、援助国からの支援の成果について、オーナーシップと称して被援助国にその結果責任を負わせようとする狡猾な姿勢は、まさに援助ジゴロにほかなりません。10 年前にも同じような議論が繰り返され、いわばゲームのようにいつの時代にも援助ジゴロに振り回されている現実があります。援助する側、される側、それぞれ進化するわけで、それぞれの立場での理屈が一人歩きます。特に、現場不在のまま、大事なことは、現場で起きている最新の情報に基づき発言し、理論を構築しているか、という大きな疑問が残ります。また、JICA のみならず、このような視点で日々の新聞を眺めると、様々な役者がこの国にいることが良くわかります。「ドナーと政府がこう考えるから従え!」、といった時流に乗ったひとつの価値観で突っ走る様相は、「バカの壁」の一元論にも通じる発想です。二元論で常に対極にある相手の価値観を認める姿勢が国際協力の原点だと考えることも重要です。我々が赴任する任国は、ゲームの会場ではないのです。

さて、話を「安全第一」に戻します。JICA 関係者は任国赴任前に必ず、安全対策のブリーフィングを受けます。途上国は、特にアフリカは総じて「危ない!」といったメッセージが伝えられます。治安、健康など、日本との違いが強調されますが、平和とされる日本においても様々な事件が発生し、罪のない人々の命が失われています。途上国で生活するから、ではなく、日常生活のなかで、自己防衛するための訓練が日本国内で行われることが必要になってきているのではないのでしょうか。学生時代は、なかよし同好会、社会人ではアナリスト、では、情報分析に基づく賢い仮説を立てることができて、実感として危機管理が高まることはまず不可能でしょう。確立したシステムに依存しない、行動を伴う責任ある姿勢が日本国内を問わず、求められているのではないのでしょうか。安全に対する意識の改善にゴールはなく、理論構築ではなく、行動を続けて、実体験を重ねることでしか習得することはできないのです。そういった意味で、開発途上国で勤務することは、システムに依存しない、自らの安全に対する意識を高める貴重な機会とも言えます。

### モシ交通事故の教訓

11 月 21 日は、JICA 関係者として、忘れてはならない日です。ご存知でしょうか。20 年前の 1985 年 11 月 21 日、マラウイから任国外研修のためタンザニアを訪れ、アリューシャとモシの間をミニバスで移動中の協力隊員 6 名が、交通事故のために命を失いました。現場はキリマンジャロ山を望みながら、緩やかにカーブする坂道でした。事故現場の近くには慰霊碑が建てられ、モシ近郊の日本人が時々、清掃をしてくれているようで、周囲は非常にきれいに維持されています。



命日の 21 日の前日 20 日、日曜日にモシ近郊の邦人を中心に 19 名が慰霊碑に集まりました。慰霊碑及び周囲の清掃、協力隊員代表の挨拶、同期隊員からのメッセージを DVD で紹介するなど、全員で追悼しました。彼らは、20 年前に国際協力活動を実践していた我々の諸先輩であり、その行動の過程で、不慮の事故で命を失うとは、まさに無念だと思います。

2 度と同じことがおきないように、関係者一同、この事故の教訓を忘れないことが、せめてもの供養ではないでしょうか。

それでは、皆様にとって、2006 年が良い年であることをお祈りします。

交通安全、安全対策について、タンザニア生活が長い人も短い人も、この機会に総点検をしてみてください。

3 回目にして、早くも文章力の弱さが、露呈しましたが、是非、非難、応援、苦情、激励をお聞かせください。

メールアドレス; [Takahashi.Naoki@jica.go.jp](mailto:Takahashi.Naoki@jica.go.jp)

## 今月の危機管理

老川所員

### < JICA 事務所の安全対策チームの新体制 >

皆様、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

さて、皆様は JICA 事務所がどのような人員体制で安全対策を行っているかご存知でしょうか？今回はちょうど新たなスタッフを迎えた時期でもあり、新年の幕開けに JICA 事務所安全対策班をご紹介させていただきます。

事務所では、所長(いや署長？石原裕次郎だ)、次長(現場隊長、渡哲也か？)、安全対策所員(老川、当然松田優作)、安全対策担当ボランティア調整員(依田、アサミヤサキ？)の日本人体制に加えて、2 名のタンザニア人 Security Advisor が日々関係者の安全にキラーンと目を光らせております。今回はこの 2 名をご紹介します。

### Mr. Teophile Edward KICHIMA

治安・政治関係の情報収集・分析を専門としており、2002 年 6 月から JICA 事務所にて勤務しております。昨年の総選挙の際にはその実力を遺憾なく発揮し、日々重要な情報を提供してくれました。スワヒリ語、英語、フランス語を自在にあやつるセカンダリースクールでの教職経験者でもあります。お話好きで愛嬌のある人柄ですので、事務所にお立ち寄りの際はぜひ「Shikamoo」と声をかけてください。

### Mr. Wilfred Abraham MCHOME

昨年 10 月に急逝された NGOWI さんの後任として、2005 年 12 月から JICA 事務所にて勤務しております。約 40 年間にわたる警察での勤務経験を持ち、MOSHI の警察訓練校や DSM の Police College での Chief Instructor、Lindi 州の Regional Police Commander (州警察のトップ) などの経歴を備え、前任の NGOWI 氏同様、タンザニア全土の警察当局とのネットワークを持っている人物です。主に一般犯罪防止や住居防犯、犯罪被害対応等を担当することとなります。着任したばかりということで、以下に MCHOME 氏からの着任 & 新年のご挨拶を掲載いたします。

¶ I would like to thank you for accepting me to join JICA and work together to segment the relationship we have. You gave me a chance to be Security Advisor, its my pleasure that we will continue with our Co-operation between Tanzania, Japan and other personnel who are working with JICA in Tanzania and all over the world, also we need more Co-operation with all Volunteers who are in Tanzania to strengthen the economical growth in our country. Again I would like to wish all staffs of JICA in Tanzania and Japan a happy Christmas and the coming



New Year 2006. Regards.」

ということで、このような体制で、今年も安全対策に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします！

### < 総選挙の結果報告 >

12月14日に実施されたタンザニア連合共和国の総選挙ですが、12月20日に国家選挙委員会(NEC)から大統領選の結果が公式に発表され、大統領選及び議会選とも与党タンザニア革命党(CCM)の勝利となりました。これを受けて、12月21日に新大統領のジャカヤ・ムリショ・キクウェテ(Jakaya Mrisho Kikwete)氏の就任式がDSMのナショナルスタジアムで執り行われました。公式結果発表後も大きな混乱は生じておらず、皆さまのご協力もあり、選挙キャンペーン及び投票日において、JICA関係者については特段の被害なしという形で現在に至っております。NECから発表された選挙結果の概要は以下のとおりです。

1. 投票率 : 72.40% (有権者数約1,640万人中、約1,187万人が投票)
2. 連合共和国大統領選挙
  - ・与党 CCM のキクエテ候補 : 得票率 80.28%
  - ・最大野党 Civic United Front(CUF)のリブンバ候補 : 得票率 11.68%
  - ・第二野党の CHADEMA のムボウイ候補 : 得票率 5.88%
  - ・その他 8 野党候補者の得票率はいずれも 1%未滿
3. 連合共和国議会選挙  
選挙区から選出される 232 議席の選挙結果は以下のとおり。
  - ・与党 CCM : 206 議席
  - ・CUF : 19 議席
  - ・CHADEMA は 5 議席
  - ・その他 2 野党が各 1 議席ずつ獲得

### < 12月の犯罪被害報告 >

日時	都市名	状況	教訓
12/4 午後 1時	ダルエスサラーム	街中を歩いている途中にタンザニア人の男に話しかけられ、親しくなり、誘われた車と一緒に乗って移動。男が車の中でマリファナのようなものを吸い始めたところで警察を名乗る別の男が乗り込んできて、罰金の支払いを求められた。隊員が偽者であることを指摘すると、開き直り金を要求し、バッグに入れてあった現金及び携帯電話を獲られ、隊員は車から押し出された。犯人はそのまま逃走。	DSMにおける日本人をターゲットにした常套手段。見知らぬ他人に声をかけられてもついていけないようにし、車には絶対に乗り込まないこと。 赴任後間もない時期における被害であり、土地勘やコミュニケーション能力が不足している段階では、単独行動は極力避けること。

### JICA 関係者カリブ・クワハリ

*Karibu*

#### 17年度2次隊を代表しての抱負：難波一宏(経済)

みなさん、初めまして。私たち17年度2次隊11名は11月の終わりに着任しまして、只今ムシンバジセンターにて語学訓練を受けている最中です。着任早々盛大な歓迎会を開いていただきまして、大変ありがとうございました。先輩隊員をはじめ、多くの方々のご配慮に感謝したいと思います。

機上で着ていた上着を奥にしまい、蚊や停電、及び原因不明な腹痛(被害者5名!)と戦いながら生活に慣



れるべく格闘する日々を送っております。大人しいといわれている今隊次ですが、「クロスロード」の紙面を飾れるような活動ができるよう、協力して頑張っていきたいと思っております。最初はご迷惑をかけることもあるかと思っておりますが、よろしく願いいたします。

### アンサンブル in ダル 衝撃の解散！！

川村所員

先月号と同様、広報担当という立場を悪用し、宣伝させていただきます(とは言いつつも解散のお知らせですが)。解散と言っても、そもそもこの存在を知らない方も多いかと思います。アンサンブル in ダルは弦楽四重奏団の名前で、2005年3月に結成されました。当初は邦人数が少ないこのダルエスサラームで、日本人のみでカルテットが結成できるなんて奇跡に近いと皆が驚きました。ちなみに弦楽四重奏とは、ファーストバイオリン、セカンドバイオリン(要するにバイオリンが2本)、ビオラ、チェロの4本が必要です。なんと、各々の楽器を弾ける人がこのダルエスサラームにそろったのです。これを奇跡と言わずして、なんというのでしょうか。

結成当初のメンバーはファーストバイオリン 田島珊瑚さん(保健省のアドバイザー 田島専門家のお嬢さん)、セカンドバイオリン 山本志保さん(日本大使館専門調査員)、ビオラ 川村康予(JICAタンザニア事務所所員)、チェロ 金森将吾専門家(マラリア対策アドバイザー、でも本業はバイオリン)、応援要員として金森彩花ちゃん(当時若干5歳のバイオリニスト)、山内珠比さん(JICAタンザニア事務所企画調査員、ピアノ)です。そして音楽監督は3種(バイオリン、ビオラ、チェロ)全ての楽器を弾きこなし、アンサンブルをこよなく愛する(本人曰く「3度の飯よりも好き」) 金森専門家、マネージャーは田島専門家というメンバーでした。

まずは形から入るために、我々はユニフォーム製作にとりかかるところにしました。事務所でも機材調達担当(別名:お買い物担当)の川村がダル市内の店で花柄の布を大量に購入し、各々その布を使って好きなデザインでテーラーに服を注文しました。ただし、女性陣が結構布を使ってしまったため、音楽監督でありながら金森専門家の洋服を作ることができなくなり、結果として、はぎれをつなぎ合わせたネクタイ!になるという事態が発生(この「つぎはぎネクタイ」は一見の価値あります。ご覧になりたい方は金森専門家まで)。5月には自己満足に近いコンサートを日本人補習校をお借りして開催し(聴きに来てくれた皆様本当にありがとうございました)、その後田島マネージャーの営業の甲斐もあって、6月上旬にはオランダ大使公邸の演奏会に招待されるという快挙も成し遂げました。この音楽コンサートのプログラムに載せるために、この時に初めてグループ名が「アンサンブル in ダル」と決まったのでした。オランダ大使公邸でのコンサート当日は、演奏が最後の方で待たされること3時間近く!!おまけに野外でお互いの音が聞きにくく、時々鳥が鳴くという最悪のコンディションの中、何とか弾き終え、カルテットの結束を深めたのも束の間、6月末にはセカンドバイオリンの山本さんが任期満了で帰国という事態に。ここで一度、解散の危機が我々を襲いました。一時期は、新しく着任する人にバイオリンもしくはチェロが弾けることという条件をつけようと、メンバーは真剣に考えたものでした。



一時休止状態にあったカルテットですが、9月に営業依頼が舞い込み、メンバー繰りに頭を悩ませていた我々は、今まで応援要員だった金森彩花ちゃん(6歳!)をセカンドバイオリンに迎え、カルテットを継続する名案を思いつきました。平均年齢がぐっと若返った我々は、何とか9月の演奏を果たしたのでした。こうしてカルテットは細々と継続してきましたが、ついに12月22日に涙の解散を迎えました。というのもファーストバイオリンの田島珊瑚さんおよびマネージャーの田島専門家が帰国することとなったからです。

小幡所長が解散コンサートの場所として自宅を開放していただき、メンバー全員がサンタ帽をかぶり、クリスマスメドレーを演奏して、我々は弓を置いたのでした。解散したものの、弦楽器を弾ける人が現れれば、再結成も考えます。該当する人は是非勇気を持って名乗り出てください。最後になりましたが、様々な形で我々のアンサンブル in ダルにお手伝いいただいた方、応援して下さった方本当にありがとうございました。(写真:解散コンサートの模様。)

在外では趣味のものを持っていった方が良いといわれ、半信半疑で楽器(ビオラ)を持ってきた私ですが、意外なと





ころで役に立ち、そしてちょうど良い気分転換になっています。皆様も是非是非、ストレス解消のためにも、そして自己満足のためにも(？)、海外生活ではご自分の趣味を持たれることをお勧めします。(ほぼ事実に基づいていますが、一部川村による脚色が入っています)。

#### 4) 特集: 新人研修「包括的マラリア対策プロジェクト」

有光所員

去る12月12日から12月23日までの2週間、新人研修中の私有光は研修の一環として、金森専門家率いる包括的マラリア対策プロジェクトにてプロジェクト業務に関わらせていただきました。包括的マラリア対策プロジェクトは以下の3つの構成要素から成り、これらの複数方向からの、複数対象への取り組みを通じ、その名の通り“包括的に”マラリアに対処しようというプロジェクトです。

1. アクリジン・オレンジ(Acridine Orange)法というマラリア診断法の普及及び検査技師対象のマラリア診断研修を通じたマラリア診断サービスの強化
2. 看護師対象のマラリア看護研修を通じたマラリア患者の看護サービス強化
3. 環境マネジメントによるハマダラ蚊生息地の減少

今月の特集コーナーでは、今回の研修中に行ったムワンザ出張(12/18,19)をレポートします。

プロジェクトでは、12月5日～9日にかけてムワンザ県の15名の看護師を対象とした研修を実施しました。今回の出張の目的は、この5日間の研修中に看護師が学んだことが、どのように現場で活用されているかを把握し、次回以降の研修で改善が必要な点を見つけ出すことです。出張者は短期専門家として日本から来られている山本専門家(指導科目:マラリア看護)と伊藤専門家(指導科目:研修企画運営及び教材開発指導)、そしてプロジェクトのC/PであるDr. Mkude、ムヒンビリ大学看護学校の講師であり、現在現地コンサルタントとしてマラリアプロジェクトに従事してくれているMs. Veronicaの合計5名です。

12月18日(日)

20:00 自宅を出て4時間後、初めての国内線飛行機体験を経て、ムワンザでの宿New Park Hotelに到着！ホテルでは一足先にムワンザ入りしていた伊藤専門家とも無事合流。

20:15 ダルエスに比べ少し涼しげな風を感じつつ、ホッとするのもつかの間、5人全員参加のもと翌日のモニタリングの方法や手順を決めるための打ち合わせを開始。看護師へのインタビューの内容、質問の順番に関して、またマラリア看護の実地観察のチェックポイントについて、医者、看護師、研修テキスト作成者などそれぞれの立場の知見を生かした意見が飛びあい、スピード感のある議論が進む。夕ご飯を食べることも忘れ議論を進めるも、気づけばもう22時。夕ご飯にありつくため近くのホテルのレストランへと場所を移動し打ち合わせを継続。丁度打ち合わせのゴールが見えてきた22:40頃、セラピアのフェッシュフィンガーがテーブルに到着。セラピアを目の前にした5人の議論のスピードはさらにアップ！5分後には見事打ち合わせを終了し、適度な疲労を感じつつ5人は食事を楽しんだ。

24:00 食事を終えた5人は宿泊先のホテルへと戻り、外から聞こえる町の喧騒を子守唄に就寝。

12月19日(月)

7:45 朝食を終え、県保健局長(District Medical Officer)のに向けてホテルを出発。

8:00 県保健局長との面会の後、12月5日～9日の研修にも関わってくれ、今回のモニタリングに同行してくれるムワンザの県看護師(District Nurse Officer)のMs. Eddaと、Ms. Reah(Senior Nurse)と合流し、皆で最終打ち合わせ。2グループに分かれ(グループA:Dr. Mkude、伊藤短期専門家、Ms. Edda / グループB:山本短期専門家、Ms. Veronica、Ms. Reah)、いざ出陣！



9:30 グループ A がブティンバ保健センターに到着。幸運にも看護研修を受けた看護師 4 名全員が病院にあり、面会をすることができ、4 名の看護師と共にいざマラリア患者が入院しているという病棟へ。成人男性のマラリア患者の病状は深刻であり、昨日入院してきたという。私たち来訪者数名及び担当外の看護師が見



守る中、担当看護師によって、マラリア治療薬であるキニーネの筋肉注射が行われた。処置の間、Ms Edda が実地観察のチェックリストに基づき処置の手順やキニーネの処方量やその計測の仕方について、また患者に対する指導の中身について観察記録をとった。私たちの存在があったためだと思われるが、担当看護師が重症で苦しんでいる患者に対し非常に詳しいマラリアに関する教育、例えば水の周りの水場の扱いなどに関する情報をも提供している様子には少し驚いた。観察者の存在に張り切りすぎたの

(処置の様子を観察する Ms.Edda) のかな、と思いつつ、その点をすかさずアドバイスしている Dr. Mkude の存在は非常に頼もしかった。

子供病棟には子供のマラリア患者がいるとのことであったが、その患者へのキニーネのタブレットの処方の時間まではまだ 1 時間程度の時間があるとのことであったのでこの患者への看護の観察及び看護師へのインタビューは Dr. Mkude に任せ、私と伊藤専門家、Ms. Edda はブズルガ保健センターへと向かった。

11:30 ブズルガ保健センターに到着すると、またまた幸運にも看護研修を受けた看護師 2 名両人が病院にあり面会することができた。当日の来訪患者の中にマラリア患者はいなかったが、入院病棟で入院している乳幼児(1歳半)のマラリア患者の様子を観察することができた。この患者の担当看護師は12月の研修を受けた看護師ではなく、またキニーネの静脈への点滴注射の処置がすでになされていたため、看護の手順の観察や聞き取りをすることはできなかったが、患者の受けている点滴の様子は観察できた。私自身は観察中は分からなかったが、観察後 Ms. Edda と伊藤専門家が話しているのを聞いていると、患者に点滴するキニーネの量が規定値よりも多く点滴のスピードも規定値より速く設定されており、患者が乳幼児でもあることから非常に危険度の高い処置であるとのことであった。

こうした状況は日本では『医療ミス』として医療関係者の責任を強く問われるところだと思うが、タンザニアではこうした過ちの責任をすべて看護師に追及できるほどに看護師は教育や訓練を受けておらず、看護師だけの責任にすることはできない様々な要因があることを感じた。また同時に、こうしたケースが日常的に発生しているのだろう、という想像も容易にすることができた。ここタンザニアでは様々な人々の能力の脆弱さがこうした命を危険にさらす状況を頻繁に生んでいるのだという恐さ、そしてそんな中で人の命のはかなさを感じ、身が震える思いをした。



12:30 12月の看護研修を受けた2人の看護師に対し、Ms. Emma 及び伊藤専門家が インタビューシートをもとにインタビューを行った。インタビューを通じてやはり看護師のキニーネの量の計算の際の計算力が十分でないことが分かり、また医師自身もキニーネの計算方法に自信がないようであることが分かった。Ms.Edda も今回のケースを見て、看護師のキニーネ処方量の計算能力の低さは非常に大きな問題であり、次回以降、この計算能力をより強化するような内容の研修を組んだほうがよいだろうと言っていた。また、キニーネの処方量は命に関わることなので、一目で処方量が分かるような一覧表を作成して看護師に渡すということも考えたほうが良いかもしれない、という意見も出た。

(インタビューを行う伊藤専門家)

13:30 ブティンバ保健センターでのモニタリングを終えた Dr. Mkude と合流し、昼食のためヴィクトリア湖で獲れた魚『サトウ』を食べられるという食堂へ。注文してから食事が出てくるまでの時間を惜しみ、食堂に電話をかけて食事を先に注文してしまうという伊藤専門家と Dr. Mkude の連携プレイには驚いたが、今後見習える機



会はありそうだと実感。

食堂で出てきた『サトウ』は予想以上に大きかったが、あっさりした白身はとてもおいしかった。

14:30 最後の訪問先であるマコンゴ保健センターに到着したが、12月の研修を受けた看護師は皆、休暇中や遅番、そして身内の不幸といった理由で病院にはおらず、面会することができなかった。病院にはマラリア患者もいなかった。

15:30 県保健局長のオフィスでグループBのメンバーと合流。グループA同様、非常にタイトなスケジュールであったようだが、皆の顔からは貴重な情報を得た、という充足感が感じられた。

その後1時間弱、両グループでのモニタリングの簡単な報告をし合い、夜7時の便で無事、ダルエスサラームへと帰途についた。

こうして私のプロジェクトでの初出張は終了したのですが、なによりも今回の出張では、そのタイトなスケジュールに驚いた、というのが正直なところ。また今回の出張では、専門家の皆さんがC/Pや現地のコンサルタント、また関係者とともに、プロジェクトの中身や計画をフィールドの現実にあわせ、丁寧に1から、土台から作っている作業を目の当たりにすることができました。

私をプロジェクトに受け入れてくださった金森専門家をはじめ伊藤、山本両短期専門家、またその他の皆様、このような貴重な機会を与您えてくださり本当にありがとうございました。

## 6) CD-Rom 教材および JICA-Net のご紹介

有光所員

皆様 JICA-Net をご存知でしょうか？ JICA-Net とは、テレビ会議・マルチメディア教材・インターネットなど、JICA の技術協力事業をさまざまな情報通信技術を活用して補完するシステムのことを指します。(詳細はこちら <http://www.jica-net.com/ja2/index.html>)

タンザニア事務所では昨年2月に導入し、その後東京やケニアを始めとする世界各地の JICA 事務所と TV 会議を行ったり、日本から配信されるセミナーを受講したりと大活躍をしています。今回はそんな最新の情報通信技術である JICA-Net を用いて作成した CD-ROM 教材の貸し出しと、2月3日に開催される JICA-Net セミナー受講者募集のお知らせです。

### 分野課題別 CD-ROM 教材

タンザニア事務所では、JICA 本部の JICA-Net チームが平成17年度に作成した以下のタイトルの CD-ROM 教材(14本)の貸し出しを行っております。貸し出しを希望される方はお気軽に有光所員、もしくは川村所員までお知らせください。英語版もありますので、是非 C/P とともにご覧になってはいかがでしょうか。

\* 以下、日本語タイトル、英語タイトル、言語の順で記載しています。

#### (1) 電気通信サービスにおける競争と規制の経済学(7 Factors Full Competition)・英語

想定対象者: 各国の電気通信政策立案者、電気通信主管庁の行政官、政策立案者および JICA 専門家、協力隊員

#### (2) 日本の3R推進の経験～試行錯誤して見えてきた循環型社会～(Japan's Experience in Promoting 3R's -A Sound Material-cycle Society Evolving through Trial-) 日本語・英語

想定対象者: 各国の公害・環境保全担当者および JICA 専門家、協力隊員

#### (3) 学ぶ機会をすべての人々へ～JICAの基礎教育協力～(Opportunity to Learn for All ~JICA and Basic Education) 日本語・英語

想定対象者: 各国の教育関係者、基礎教育支援関係者および JICA 専門家、協力隊員

#### (4) JICA 運輸交通ハンドブック～要望調査編～ 日本語

想定対象者: 各国における運輸交通 ODA 関係者および JICA 専門家、協力隊員



- (5) **30分でわかる！開発に役立つジェンダー入門** (30-minute Introductory Course for Gender and Development) 日本語・英語  
 想定対象者: JICA 専門家、協力隊員
- (6) **情報倫理** (Information Ethics) 英語  
 想定対象者: 各国の中等学校の生徒、中等学校IT 教員、PC を利用する公務員および JICA 専門家
- (7) **日本の公害対策経験～政府、企業、市民が果たした役割と努力～** (Japan's Experiences in Tackling Environmental Pollution ~Stakeholder's Roles and Efforts, Including Governments, Industries and Citizens) 英語  
 想定対象者: 各国政府の公害対策担当者および当該分野専門家、協力隊員
- (8) **日本の生活改善の経験** (The Lessons from Livelihood Improvement Experiences in Postwar Japan) 日本語・英語  
 想定対象者: 各国の行政官、NGO および JICA 専門家、協力隊員
- (9) **社会保障: 日本の経験と国際協力** (Social Security ~Japan's Experience and International Cooperation) 日本語・英語  
 想定対象者: 各国の社会保障担当者および JICA 専門家、協力隊員
- (10) **ローリスク住民参加型村落開発の事例～PRODEFIモデルの紹介～** (Low-risk community based rural development model) 日本語・英語・フランス語  
 想定対象者: 各国の住民参加型地域開発、森林開発、環境保全分野の関係者および JICA 職員、協力隊員
- (11) **民法体系入門** (Introduction to the Civil Law Systems) 英語  
 想定対象者: 各国の行政官、検察官、裁判官、司法省法整備担当者、JICA 職員、協力隊員
- (12) **彩 (IRODORI) ～木の葉の里の元気づくり～** (IRODORI ~Rural community empowerment through exploring local resources-) 日本語・英語  
 想定対象者: 各国の地域開発関係者および JICA 専門家、協力隊員
- (13) **釧路湿原における湿地のワイズユース (賢明な利用)** (The "Wise Use" of Wetlands in the Kushiro Wetland) 英語  
 想定対象者: 各国の中央および地方政府の中堅行政官、NGO および JICA 専門家、協力隊員
- (14) **道の駅って何？ - 地域活性事業の事例** (What is a Road Station Michinoeki-? An Example of Community Based Development) 英語  
 想定対象者: 各国の農林業・地場産業振興担当者、観光関連省庁の企画・開発業務に従事している人および JICA 専門家、協力隊員

JICA-Net セミナー (1月10日申し込み締め切り)

2月及び3月にかけて、以下の JICA-Net セミナー(英語)の受講が可能です。受講を希望される方は1月10日まで<sup>1</sup>に有光所員(Arimitsu.Sachiko@jica.go.jp)まで参加希望者指名、所属、連絡先メールアドレスをお知らせください。カウンターパートの方の受講も可能です。

受講場所はタンザニア事務所小会議室となりますが、事務所までの交通費等は支給されませんので、ご注意ください。また、当日停電により JICA-Net を通じてのセミナーの受信ができなくなる可能性もありますので、あらかじめご了承の上お申し込みください。

1月31日(火)15:00～17:00 日本市場へのアプローチ 日本の商習慣と消費者  
 講師: 河村一雄(財団法人大阪国際経済振興センター)

2月9日(木)15:00～17:00 日本におけるエコオフィス活動 民間企業・JICA の事例  
 講師: 秋山祐之(富士ゼロックス)、服部一平(JICA 総務部)



2月28日(火)10:00～12:00 生産性向上セミナー 5S

講師：藤田精一(早稲田大学アジア太平洋研究科教授)

3月1日(水)10:00～12:00 生産性向上セミナー Just in Time

講師：藤田精一(早稲田大学アジア太平洋研究科教授)

セミナーの内容に関する詳細はこちらのページで確認できます。

[http://www.jica-net.com/ja2/lib/php/LibControl.php?VFR\\_POSTCTRL=OPEN&VFR\\_DISPkind=0&VFR\\_DISPCODE=&VFR\\_DISPNAME=&VFR\\_CONTROL=&VFR\\_LANG=0](http://www.jica-net.com/ja2/lib/php/LibControl.php?VFR_POSTCTRL=OPEN&VFR_DISPkind=0&VFR_DISPCODE=&VFR_DISPNAME=&VFR_CONTROL=&VFR_LANG=0)

パモジャでは引き続き皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。特に特集ページでは援助分野に関係なく、タンザニアのさまざまな分野における一般的な概要をご紹介できればと思っています。皆様の役に立つ、楽しいニュースレターにしたいと思っておりますので、取り上げてほしい特集・リクエスト、投稿など、どしどし下記のメールアドレス宛、あるいは直接ご連絡ください。

なお、パモジャ(Pamoja)とはスワヒリ語で「一緒に(together)」という意味です。

Email address: [Arimitsu.Sachiko@jica.go.jp](mailto:Arimitsu.Sachiko@jica.go.jp)



